

地域開発の夢乗せて

林業構造改善事業の大要決る

埋もれたる資源に生きる阿仁町……全町総面積の九四%が山林といわれる我が町に今、地域開発の夢を乗せて発展への胎動がはじまるとしています。豊富な森林資源と、眠れる広大な林地に開拓の血を通わせる「林業構造改善事業」がそれです。

本年五月、国の林業基本法に基づく林業構造改善事業の地域指定を受けて、以来着々とその態勢を整えて参りましたが、このたび、県及び林野庁の審査認可を経て、こゝに本事業は大きな期待のもとに四十二年度から実施されることになりました。以下その大要をお知らせします。

林業構造改善事業のねらいは、林業家を育成助長して林業による収入の増大をはかるというもので、具体的には、林道の開設、入会林の近代化、林業用諸機械の整備、特認事業の実施、早期育成林経営の促進事業などがあり、事業費の総額が約七千万円で、町としての計画は次の通りです。

林道の開設

未開資源の開発に、どうしても必要なものは、林道で、新しく五つの路線が林道として開設の予定で、事業の規模からして林構事業の六割位を占めています。

○馬見長根線 幸屋渡

幸屋橋

永久橋に生れ変わる

ブナ開発のルート

喜ばれています。
橋は長さ四十メートル
巾四メートルです。

大阿仁地区の国道一〇五号線から幸屋部落に至る「幸屋橋」が完成、永久橋として生れかわりました。工事は、阿仁營林署の地資源開発のための併用林道事業として実施されたもので、総工費一千三百五百万円のうち受益部落負担として百六十万円が幸屋部落及び町より支出されています。現在、阿仁營林署では森吉山に眠る約二十万立方メートルのブナ資源を開発すべく、三十八年から五ヶ年計画で林道工事をおこすとおり、延長十四キロ、巾員三、六メートルの予定もあと一、五キロを残すのみとなつております。これにより森吉山一帯の森林資源の開発のほか、自動車道路が山腹までとおるため森に登山の最短ルートができることになり、産業、観光のことです。

